

令和5年度 いのちの授業 事例集（中学校）【道徳】

掲載数

193

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中2	道徳	生命の尊さ 「そこにいていいだけ」	事前の調査で、①自分の名前の由来（全員）②産まれたときのエピソード（任意）を知った状態で授業を行ったので、自分事として考える生徒が多かった。自分の考えをchromebookを活用し、全員が見られるようにし意見の交流を行った。教科書内容のあと、出産経験のある教諭の体験談をもとに、誰もが親から待ち望まれて生まれ、支えられてここまで生きてきたことに触れた。最後に、川崎市子どもの権利条例に触れたことで、他の人の命も自分の命と同じように尊いものだと考える生徒がいた。「自分が支える側になったら、自分が支えてもらったようにたくさん支えていきたい」「この命を大切にしたい事、嫌なことも経験としてやっていきたい」など将来に向けた感想も見られた。	学年でローテーション道徳のかたちを取り、授業は学年所属で出産経験のある教諭が行った。 (参考資料)道徳2年教科書、川崎市子どもの権利条例
2 川崎市	中2	道徳	生命の尊さ 「生命の尊厳」	安楽死や生命の尊さについて考えることを通して、生命の尊厳について深く考え、かけがえのない自他の生命を尊重し、よりよく生きようとする心情を育てるというねらいに迫った。母親の思いと子どもたちの思いを受けた2人の医師の相反する価値観や不慮の死を通して、生命の尊さについて深く考えることができた。	新・中学生の道徳 明日への扉2年 「ブラック・ジャックふたりの黒い医者」
3 川崎市	中2	道徳	生命の尊さ 「ブラック・ジャック 二人の黒い医者」	道徳の授業で生命の尊さをテーマに授業を実施した。事故で体を動かせなくなり安楽死を望む母親と、高額な手術費を払ってでも母親を助けたい子どもたちのそれぞれの思いを考えることで、いのちの貴さを考えた。	新・中学生の道徳 「明日への扉」
4 川崎市	中3	道徳	自分も相手も大切に	NICUの看護師を講師に招き、集中治療の場であるNICUが家族の場であること、相手に寄り添ったケアについて学んだ。時代の流れと共に変わりゆく人間関係のあり方だが、人と関わりをもたずに生きていくことは難しく、ことばの伝わり方、ことばのもつ力について考えるきっかけとなった。自分の思った通りに伝わらず、受け手によってはそれでいのちを落としてしまうこともある。SOSの出し方についても想像力を働かして、気付けるようにといのちの大切さについて多面的に考えを深めた。	聖マリアンナ医科大学病院 ・小児病棟看護副部長 ・新生児集中ケア任意看護師
5 川崎市	中3	道徳	あなたのいのちは誰のもの	「優介の決意」という教材を通し、生命の連続性や有限性について考えた。臓器提供・臓器提供意思表示カードから、自分の命だから自分の意思で提供することも選択できるが、提供する側の家族の気持ち、提供される側の気持ち、様々な立場から、いのちについて考えた。生命倫理に関わる課題を取り上げて話し合い、多面的・多角的に捉えることによって、生命の尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど、生命尊重への学びを深めさせる授業を行った。	新・中学生の道徳 明日への扉3

6	川崎市	中複合	道徳	いじめ防止キャンペーン①	全学年を対象に、5月にいじめ発生のメカニズムを知るとともに、どのように行動していくべきかを学級担任が資料を用いて授業を行い、学校スローガンについてクラス内で作成する活動を行った。生徒たちはいじめについての考えを話し、防止につながるアイデアについて共有しようと意欲的に取り組んだ。	いじめ防止DVD教材を使用・複合学年
7	川崎市	中複合	道徳	いじめ防止キャンペーン②	いじめ防止を目的に個人取り組みを「宣言」という形で表し、クラス内で発表する活動を行った。5月のスローガン設定から学級活動や学習活動での自分たちの行動や言葉かけの振り返りを行い、生徒たちは後期の活動において、より良い学級や学校の雰囲気自分たちの手でつくっていくために真剣に話し合い活動に取り組んでいた。	生徒指導担当・学級担任
8	川崎市	中2	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で「ブラックジャック ふたりの黒い医者」の資料を扱った。資料の内容は、ドクターキリコは安楽死を望む母の願いを叶えようとし、ブラックジャックは母親の回復を望む子供たちの願いを叶えようとする。授業を通して生命の尊厳について深く考え、自他の生命を尊重しようとする心情を育むことができた。	・道徳の教科書「明日への扉」
9	川崎市	中3	道徳	国際理解	道徳の授業で「杉原千畝の選択」の資料を扱った。資料の内容は、第2次世界大戦中にリトアニア領事だった杉原はナチスドイツによる迫害からユダヤ人を救うため、自らの命の危険を顧みず、ビザを発行し続けた。授業を通して、人間の存在や価値についての理解を深め、世界平和に貢献する行動を自らとるための判断力を育むことができた。	・道徳の教科書「明日への扉」
10	川崎市	中1	道徳	捨て犬・未来	授業を始める前に、この内容は「命」について扱うため、軽率な考えや発言がないように指導した。 この単元は、生きていることの素晴らしさに気づき、生きとし生けるものの生命を大切にしようとする心情を育てることがねらいである。資料を読んだ後、質問を投げかけて感想や考えを述べ合った。さらにはYouTubeを視聴し、ひどく傷ついた「未来」の姿を見て自分の命や（飼っているならば）ペットの命、また、将来できるかもしれない家族の命について、どのように考えていくのかを深く学ぶことのできる内容であった。	新・中学生の道徳 「明日への扉①」 YouTube 「捨て犬・未来」 (3分45秒)
11	川崎市	中2	道徳	道徳 「ブラック・ジャック」	ドクター・キリコは安楽死を望む母の願いをかなえようとし、一方、ブラック・ジャックは母親の回復を望む子供たちの願いをかなえようとする。人それぞれ幸せが何なのかを深く考えることができ、自分が良かれと思ってやっても相手にとってはそうではないということがわかったので、これからは人の立場に立って物事を考えたいという生徒の感想があった。	中学生の道徳 明日への扉2年
12	川崎市	中3	道徳	道徳 「忘れられないご馳走」	主人公の「私」は、家畜として譲られたヤギに、世話をするうちに愛着をもつ。ヤギ汁にされてしまいショックを受けるが、同時に生き物の命で生きている自分を実感する。動物にも人間と同じように命があって、その一つ一つの命が尊いものであると同時に、その命のおかげで自分の命が成り立っているという生徒の感想があった。	中学生の道徳 明日への扉3年

13	川崎市	中3	道徳	明日への扉3 29「優介の決意」	臓器提供意思表示カードをもつ主人公が事故にあい、脳死状態となった。しかし、主人公の家族は臓器提供を拒み、最終的には臓器提供は行われぬまま主人公は息を引き取る。主人公の友人は、それが正しい決断だったのかを考え続ける。 このストーリーを読んで、生徒は生命の連続性や有限性を理解し、かけがえのない生命を尊重することについて考えた。「初めは、脳死状態になった場合は臓器提供をしてもいいと思ったけど、自分の家族のことを考えると、難しいと感じた。普段の生活から人に思いやりをもったり、自分の人生を一生懸命に生きたりすることが、命を尊重することにつながると思った。」というような意見が生徒からあがった。	臓器提供意思表示カードを実際に見せることでイメージをもたせた。
14	川崎市	中2	道徳	殺処分問題を解決するために	犬の命をテーマにした絵本「ある犬のおはなし～殺処分ゼロを願って～」を読み聞かせ、殺処分について考えた。殺処分問題については知らない人に多く知ってもらうことで理解が深まっていくと思うという意見や、きまりを通して命を大切にするという意識が働き殺処分にブレーキがかかると思うという意見、動物も人間と同じように命があり大切であることが分かったなど、意見交換を通して多面的・多角的に考えを深めることができた。	HP「ある犬のおはなし」 YouTube「ある犬のおはなし～殺処分ゼロを願って～」 「犬の十戒」
15	川崎市	中2	道徳	深い愛情で結ばれている家族	道徳科の教科書「美しい母の顔」を扱った。母の無償の愛に感銘を受け、家族間の絆を見直す教材内の主人公の言動について考えたり、級友と意見交換をしたりする中で、かけがえのない存在として家族の深い愛情によって育てられていることに感謝をし、充実した家庭生活を築こうとする心情の涵養に努めた。また、生徒に保護者への手紙を書かせた。そのことで、自分の存在価値を高めるとともに、家族への感謝の気持ちを改めて持つことができた。	道徳科：教科書(学研) 「新・中学生の道徳 明日への扉」 「美しい母の顔」
16	川崎市	中3	道徳	かけがえのない命	阪神淡路大震災で息子を亡くし、助けられなかった自分を責める主人公。その後、自分だけの悲しみから、娘の存在や周囲の人々の支えや悲しみに気づき、娘がいきっていることに感謝することができた。震災によって我が子を失った主人公を通して、「命の大切さ」とともに「命のつながり」について考えた。	ゆうへ～生きていてくれてありがとう
17	川崎市	中1	道徳	かけがえのない生命を尊重する	幼少期から筋ジストロフィーにおかされ、23歳と7か月で亡くなった主人公の生き方を通して、かけがえのない生命について考えた。生徒は、生きがいを見つけて精一杯生きる主人公の姿に気づき、生命に限りがあること自覚し、授けられた命をどのように生きていくかについて考えた。	たとえばくに明日はなくとも
18	川崎市	中2	道徳	SOSの出し方・受け止め方	悩みやストレスをため込まないことの大切さを知る、友達から相談されたときの受け止め方を知ること目標に授業を行った。SCの先生からのメッセージを最後に伝え、困ったことがあったらすぐにSOSを出す重要性を伝えた。	SOSの出し方・受け止め方教室(かわさき共生*共育・エクササイズ)

19	川崎市	中1	道徳	生命の尊さ	「捨て犬・未来」において、生命の尊さについて考える学習を行った。題材には東日本大震災の内容が含まれており、動物の命というテーマに捉われず、生きとし生きるものの命を大切にすることを考えた。感想の中に、どんな命も大切にしないといけない。不幸なことがあっても諦めないで今できることを頑張れば明るい未来が待っているなど、自分や身の回りの生きるものの命を大切にすることを考えることができた。	動物殺処分データ・動画 ワークシート
20	相模原市	中複合	道徳	命に関する授業	命に関わる授業とイジメに関する授業を各学期はじめに道徳の授業で取り扱い、学校生活を豊かに過ごせるように指導をした。	教科書を利用して授業を行った
21	相模原市	中1	道徳	いじめ	いじめをテーマにした詩『わたしの妹』（松谷みよ子）を読み、いじめの定義やその結果の重大性について扱いました。また、実際のいじめに関する事件の記事を通して、命の尊さを考える時間をつくりました。そのあと、具体的にどのような言葉や態度が人を傷つけるのかをグループで検討し、発表することで学級内で共有をおこないました。	『わたしの妹』 ：松谷みよ子
22	相模原市	中1	道徳	権利の熱気球	身近にある様々な権利について考える活動を通し、人権の大切さを考えるとともに、それを尊重しようとする態度を育てる。また、権利に対して、様々な考え方や捉え方があることを実感し、自他を尊重する意識を高めることを目的とし、1学年を対象として、人権について考えるための授業を実施した。	講師 校長 相模原市教育委員会作成資料一部改訂
23	相模原市	中複合	道徳	いのちのミュージアム ～生きてくても生きられなかった人～	脳性まひのバイオリニスト式町さんに来ていただき、演奏と講演をしていただいた。式町さんの生い立ち、小学校時代にいじめに合った経験を交え、周囲に支えてもらいながらバイオリンを一生懸命努力したこと。誰もが生きづらさやコンプレックスを抱える中、マイナスにとらえるのではなく、現在は、世界の平和に向け、あらゆる人が幸せになるような活動をしている。生徒は講演後、各担任から式町さんの講演や演奏を聴き世界の平和に目を向けるなど前向きな感想が書かれていた。	バイオリニスト 全学年
24	相模原市	中複合	道徳	人権教育 「なぜ命は大切なのか」	人権について、人権とは皆が楽しく生きることができる権利であるということや、そのために周りだけでなく自分の命も大切にしなければいけないということなど、講師の方の人生経験も交えながら話していただいた。生徒たちは人権や命について真剣に考えながら話を聞いており、後に実施した人権作文ではこの講演の内容を基にした内容を書いている生徒も少なくなかった。	講師は人権啓発活動を行っている国連NGOの所長
25	相模原市	中3	道徳	平和教育 「平和について考える」	戦後78年を迎え、実際に戦争を経験した方からお話を伺う機会が少なくなる中、戦争経験者の話や、原爆資料館の所蔵品を紹介した映像資料を見た。伝え聞いた話ではなく、実際にその場で経験した人達が話す姿を映像として見ることで、心に重く響いた生徒が多かった。戦争は、二度と繰り返してはならないことや、命の大切さについての感想を書いている生徒が多かった。戦争の悲惨さから命の大切さを改めて感じ、平和な世の中を自分たちの手で守っていききたいとの感想を書いている生徒もいた。しかし、昨今の世界情勢を見て、平和な世界を実現することの難しさを見いだした生徒もいた。	動画『君はヒロシマを見たか』

26	相模原市	中1	道徳	生命の尊さ	いのちって何だろうという作者の問いについて考え、「いのち」とは何か、その尊さを守るためにどのように考えていくかについて理解を深め、かけがえのない「いのち」を大切にしようとする態度を育成する。	資料名 『いのちって何だろう』
27	相模原市	中2	道徳	生命の尊さ	北村春夫さんの生き方を通じて、生命の尊さ（生命の有限性）を理解し、自他の使命の大切にしようとする心情を育てる。	資料名 『奇跡の一週間』
28	相模原市	中3	道徳	「命」と「家族」と「親になるということ」	命の大切さは理解しているが、家族を作ることや産まれてくる命はどこか遠い将来のこと、自分事として感じられない部分があった。そこで経験者の話を取り入れ、感情移入しやすい物語の動画資料を通じて学習することにした。 初めの時間では【出生前診断】について行った。この制度自体を初めて知った生徒も多かったが、「生むかどうか」の命の選択をすることではなく「命に対する重さ」を強く感じ、「自分だったらどうするのか」を真剣に考えていた。 また、翌週【14歳の妊娠】から自分たちにも起こりえることで、性への関心も高い年齢だからこそ、命に伴う責任に目を向け考えられており、性に関する行動への責任について考える生徒もいた。	Youtube動画 出生前診断について コウノドリ 「出生前診断 家族をつくるということ」 「14歳の妊娠 少女が母になるとき」
29	相模原市	中2	道徳	垣根をこえて「六千人の命のビザ」	命に関する道徳の授業を、杉原千畝氏の行った歴史的意味や意義・その価値について触れながら、2日間にわたって行った。1日目は、NHKティーチャーズ・ライブラリーからDVDを借り、彼の業績などについて学んだ。2日目は、それを踏まえて個人で考え、グループや学級全体で協議した。命とあわせて、国際理解や国際貢献についても活発な意見交換をする時間となった。	【参考資料】 DVD「その時歴史が動いた 6000人の命を救った外交官～杉原千畝ビザ大量発給決断の時～」
30	相模原市	中複合	道徳	スマホ・ケータイ安全教室	全校で各教室のTVモニターを通じて、スマホ・ケータイについての正しい理解と人を傷つけることのない正しい使用の仕方を学ぶ。	KDDI講師によるオンライン講座
31	相模原市	中2	道徳	生命の尊さ	妹の誕生に対する「私」や「私の家族」の思いを通して、生命のつながりや関わり合いを考え、かけがえのない自他の生命を大切にしていこうとする心情を育てる。	新訂 新しい道徳2 東京書籍 (道徳の教科書)
32	相模原市	中2	道徳	奇跡の一週間	末期がん患者の話から自分や身近な人と置き換え、グループワークで意見交換を行った。残されたわずかな命で自分のできる限りのこと（好きなこと、仕事etc）を行う部分は話題も盛り上がり、命について深く考えることができた。	・教科書 ・プリント（ワークシート）
33	相模原市	中2	道徳	いのちとは・・・	教科書や資料を参考にせず、「いのちとは・・・」という項目をもとにChatGPTを用いて、いのちについて会話をし、言葉の意味について深めていった。プロンプトの仕方は自由にし、個人で会話させたあと4人班で共有した。たくさんの「いのち」の種類や概念について触れることで「生死だけではない、いのち」について考えることができた。最初と最後に「いのち」の捉え方の変化も多く、充実した授業となった。	・タブレット ⇒ChatGPT ・プリント（ワークシート）

34	相模原市	中1	道徳	生命の尊さ	VTR「小さな命スペシャル～愛しているよカズ～」を視聴し、感想を書いた。	
35	相模原市	中3	道徳	生まれてきてくれて、ありがとう～助産師からのメッセージ	ある助産師からのメッセージを読み、助産師がどのような気持ちで仕事をしているのか、生まれてくる命に向き合う姿勢を通して自分や他者の命に感謝する気持ちを養う。生徒の感想からは「生まれてきたことへの奇跡」「育ててくれた周囲の人への感謝」を感じたことが読み取れた。	「新しい道徳3」 東京書籍
36	相模原市	中1	道徳	いのちって何だろう	「いのちって何だろう」という作者の問いについて考え、「いのち」とは何か、その尊さを守るためにどのように考えていくかについて理解を深め、かけがえのない「いのち」を大切にしようとする心情を育てた。	道徳教科書
37	相模原市	中2	道徳	妹に	妹の誕生に対する「私」や「私の家族」の思いを通して、生命のつながりや関わり合いを考え、かけがえのない自他の生命を大切にしていこうとする心情を育てた。	道徳教科書
38	相模原市	中複合	道徳	「いのち」の大切さを学び、一人ひとりが「自分らしい生き方」を実現するための力を身につけさせる。	夜間学級で行う700時間全ての授業が「いのちの授業」に関わるということを前提として、今年度は、「道徳」に焦点を当てて取り組みました。1学年では、「水戸部さんの悩み」、「生命誕生」を通して、自身の「いのちのかけがえのなさ」について向き合いました。2学年では、「思いやり」、「社会生活と性」、「よりよく生きる喜び」、「生命の尊さ」を通して、自尊感情から他尊感情を考え、感じる機会を作り、命のかけがえのなさに焦点を当てて、それぞれがよりよく生きるについて深く考えました。	夜間学級の教員が、それぞれ教材を用意し授業を行いました。(参考：道徳の読み物、絵本、独自の資料)
39	横須賀市	中2	道徳	人権教育 公正・公平 社会正義	ピンクシャツデーの取り組みについて、取り組みの意義について考えるとともに、更に、自分の行動や考えが、いじめや差別、偏見につながるかもしれないということについて考えた。いじめや差別、偏見のない社会を実現するために自分たちはどう行動すべきかを考える時間となった。	「きみがいちばんひかるとき 2年」 光村図書 「明日、みんなで着よう」
40	横須賀市	中2	道徳	道徳内容項目 D-19 生命の尊さ	1年の道徳では、『お互いを認める』をテーマに、「思いやり『ちびまる子ちゃん』」を扱った授業「あなたの夢や大切なものが、途中で断ち切られたとしたら『わたしのいもと』」を扱った授業を行った。小規模校ながらも、いろいろな生徒がいることを理解し、お互いを認め合い共生してほしいという願いからである。その際、どの子ども家族にとってかけがえのない存在であり、1人ひとりの後には家族がいることを意識させた。本来なら1年で行うはずだった今回の教材も、自分がどれだけ大切な存在であるかを知り、同じように自分以外の人も、かけがえのないものであることを考えさせ、命に対する考えを深めさせたい。	・明治生命のCM「たったひとつのたからもの」 ・保護者アンケート ・小田和正「言葉にできない」CD・歌詞

41	横須賀市	中2	道徳	道徳内容項目 D-19 生命の尊さ	はじめに生徒に自分の「大切なもの」について考えさせる。 資料「わたしのいもうと」を配布し、教師が音読で読み進める。 「わたしのいもうとの話を聞いて下さい」という手紙。いじめにあい、登校を拒否し、心を閉ざしてしまった子の話。 話を聞いて、どのように考えたかを発表させる。自分たちのクラスに重ね合わせて考えさせる。	松谷みよ子 「わたしのいもうと」 発行所・偕成社
42	横須賀市	中複合	道徳	薬物乱用防止講演「薬物から命を守る」	薬物乱用による心身への影響、依存症、疾病との関連、社会への影響などについて映像を見ながら、その影響や自分の人生や命を大切にすることはどういうことなのか理解を深めることができた。講演後に書いた感想文では、薬物乱用による影響がみられる画像や実例を含めた話から、生徒は自分の事として受け止め、薬物の健康への影響について考察している様子も見られた。	講師は、横須賀北ライオンズクラブより 1年・2年・3年
43	横須賀市	中複合	道徳	つながれいのち	いのちのミュージアムから講師の先生をお招きして、全校でお話を聞き、その話を振り返る形でクラスで話し合いを持ちました。実際に亡くなった子どものパネルをもっていただき、その経験をお話しいただき、「生きる」「生きている」ことのすばらしさを実感できる内容でした。	いのちのミュージアム
44	横須賀市	中3	道徳	新ちゃんの流しびな	ゲストティーチャーとして、子を持つ親の立場で1クラス1名ずつ子供を育てる喜びや大変さを話してもらい、新ちゃんの流しびなというお話について話し合いました。また、子どもたちには、秘密で親からの手紙を準備しておいて、最後にそれを配布し、授業を締めくくりました。こどもたちは、涙を流して授業の感想などを記入していました。	子どもを持つ教員
45	横須賀市	中2	道徳	「たったひとつのたからもの」	生後一週間でダウン症の疑い、その半月後に心臓内膜欠損症と肺高血圧症と診断された著者の息子。彼は六歳で生涯の幕を閉じた。著者である母親の手記や、CM、障がいがありつつ自身で道を切り開いた方の動画を見せ「短命なのは不幸なのか」「障がいがあるのは不幸なのか」「精いっぱい生きるとはということなのか」について考えを深めた。	
46	横須賀市	中2	道徳	気高く生きる	阪神淡路大震災で被災者の救助活動・遺体捜索にあたった警察官の手記をもとに、震災が人間の生活を脅かす中で、人間の尊厳をもった生き方について学習した。授業後の感想からは、人として強く生きていくことの重要性和共に、家族の存在について深く考えるきっかけになったとの記述が多く見受けられた。自分自身の生き方を考え、より身近な他者である家族について深く考えることが出来た。	教科書：教育出版【中学道徳②】飛び出そう未来へ

47	横須賀市	中3	道徳	家族愛・家庭生活の充実	卒業期に当たって、保護者より生徒に向けたこれまでの生育の過程を通した思いを手紙にして書いて頂いた。 各クラスから1名にお願いして、匿名という形で教師が代読した。その後、生徒各自がそれぞれの保護者へ向けた感謝の手紙を書いた。 思いは様々だが保護者からの思いに直接触れることで、保護者のみならず、家族への思いを強くもち、家族の在り方を考える授業となった。	
48	横須賀市	中2	道徳	内容項目D-(19) 生命の尊さ	「たったひとつのたからもの」という教材を使用した。生命を尊重することについて、精いっぱい生きることが大事であることをとらえ、自らの経験と重ねて考えを深める授業を行った。生徒の感想では、「障害や病気を持っていても、明日への希望をもって精いっぱい生きている。また人の幸せは命の長さではないということもあり、自分もその瞬間を全力で生きていかなければならない(原文)」と振り返るなど、生きることの意義について気づき、考えることができた。	教育出版 中学道徳 「たったひとつのたからもの」
49	横須賀市	中1	道徳	いのちを考える	「殺してはいけない」尊いいのちをいただかないと生きていけない私たち人間、すなわち自分について、その矛盾や葛藤を、じっくりと考え、議論した。「生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の念」を、人間(自分)を中心に考えるのではなく、人間(自分)は他の生き物に支えられ、生かされているという考え、姿勢をもつことによって、学級、学校や家庭でも自己中心的にならず、思いやり、感謝の心をもって生活していこうと考えを深めていた。	教育出版【中学道徳1 とびだそう未来へ】
50	横須賀市	中1	道徳	よく生きること、よく死ぬこと	導入として「人はなぜ生きるのだろうか」ということを一人ひとりが考え、教材にある十六歳でがんで亡くなったヨッチちゃんが教えてくれたことから、「よく生きる」ために大切なことを考え、議論した。生徒からは、一日一日を大切にして、感謝の気持ちを持って生きていくことや「なりたい自分」になるために一生懸命努力することといった、今の自分の生活やこれからの未来に向かってできることと関連させて考えている前向きな意見が多かった。	教育出版【中学道徳1 とびだそう未来へ】
51	横須賀市	中3	道徳	家族の思いと意思表示カード	道徳の教科書を題材に、身近な人と臓器提供のシステムとの関わりとして、自分が受ける・供与する、家族が受ける・供与することについて、どのように考えるかを中心に話し合い活動を行った。他者の命が救われることは分かっているにもかかわらず、脳死状態の家族から臓器を摘出することに悩む姿など、自他のいのちについて考える様子がみられた。	3年担任により実施 中学道徳3 とびだそう未来へ(教育出版)
52	横須賀市	中1	道徳	生命の尊さ	道徳の教材である「いのちを考える」を取り上げ、人間とその他の生物の命の価値について考え議論した。むやみやたらに生き物を殺してはいけないとわかっているものの、生き物を殺さなくては生きていけないという矛盾について、それぞれの意見をぶつけ合い自分たちの考えを深めることができた。	教育出版 「中学校道徳1 とびだそう未来へ」

53	横須賀市	中2	道徳	性に関する授業	養護教諭が学年全体に対して性に関する授業を行った。生徒一人ひとりが知らないうちに性に関する被害者・加害者にならないために、どんなことをしてはいけないのか、どういいう危険があるのかなどについて具体例を挙げながら説明を行った。振り返りの中で、生徒が正しい知識を知らない場合が多いということがわかった。	
54	横須賀市	中2	道徳	たったひとつの たからもの	はじめに、「あなたにとっての宝とは」というテーマについて考えさせた。その発問を通じて「幸せとは」について意見を交流させた。その後、ダウン症で生まれた男の子が両親の愛情に包まれながら、さまざまなハンデの中で6年間生きたという物語を読んだ。最後に「精一杯生きるとは」について考え、命の有限性について考えを深めた。また、かけがえのない命を尊重する姿が見られた。	道徳の教科書 『とびだそう未来へ』
55	横須賀市	中2	道徳	気高く生きること 喜びを見いだ そうとする心 情を育てる。	震災で母を失った少女の姿を通して、人間には弱さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを共有した。その後、「もし自分が少女の立場だったらどのように未来を生きていくか」を発問した。当たり前前に明日が来る保障は何処にもないことを感じ、より一層家族、友人らと過ごす日々を大切にしようとする生徒の姿が見られた。また、すぐに前は向けないけれど、自分自身を大切にしながら前向きに努力したいと考えた生徒もいた。この授業を通して、困難があっても気高く、自分らしく生きようとする姿勢を育むことができた。	教材：中学道徳2 とびだそう未来へ
56	横須賀市	中1	道徳	道徳読み物教材 【D19 生命の 尊さ】	余命半年の16歳の少女ヨッチちゃんが、病気が進行していく中で、死の恐怖や「生きたい」という自分の願いと向き合いながら、これまでの人生に感謝し、人生をまっとうする姿を通して、“よい生とよい死”について考えさせた。「一日一日を大切に生きていきたい」「後悔しないように生活をしていきたい」などの意見が見られた。	『よく生きること、よく死ぬこと』
57	横須賀市	中2	道徳	生命の尊さ	本校2階渡り廊下に展示してある伏龍について知り、戦争の悲惨さについて考え、命の尊さについて考え議論する。 指導内容は、伏龍について自分の感想を伝え合ったのち、寄贈いただいた方が最も伝えなかったことについて考え議論する。	展示物は、人間地雷「伏龍」の元隊員だった方が、訓練した海岸近くにある中学校に寄贈して下さったものを教材に活用した。
58	横須賀市	中1	道徳	生命の尊さ 思いやり	様々な状況により300gに満たない体重で生まれた子も、3000gを超える体重で元気に生まれてきた子も強い生命力をもって生まれたかけがえのない命であることを理解し、その重さや尊さについて考えるとともに、生きていることの奇跡や素晴らしさを実感させる。 また、その奇跡的に存在している私たちは、互いに傷つけあってよいのか。人との関わり、思いやりについても考えさせる。 本授業では、生命の尊さについて考えるとともに、自分自身や他者を大切にする心を育てていく。	授業者の知人から受け取った手紙（出産の記録）を用いた。

59	横須賀市	中3	道徳	家族の思いと意思表示カード	自分だったら意思表示カードにどんな意思を示すかを考えることから、かけがえのない生命への思いを深めることを学んだ。様々な人の視点から、自分が意思表示カードを持てかどうかについて深く考えた。	教育出版 中学道徳3 とびだそう未来3
60	横須賀市	中1	道徳	「生命の重さについて」	『道徳をどう解く?』の食べて良い生き物と食べてはいけない生き物を解きながら、筆者の考えを受けて、「なぜ生き物を殺してはいけないのか」について自分の意見を考え、ほかの人たちと意見交流を行った。	
61	横須賀市	中2	道徳	「生命の尊さ」	紛争という極限状態における貫戸明子さんの判断についての議論を中心に、命を大切にするとどうゆうことなのか?について、考えを深めた。命に対する判断の難しさを実感し「命を大切にすることについて他者との共有しながら考えを深めていった。	
62	横須賀市	中1	道徳	いのちを考える	発問：なぜ人を殺してはいけないのか。 教科書や教師の経験談（出産）を通して、なぜ命は大切にしなければならないのかとグループや個人で考えさせ、意見交流をすることで考えを深めた。真剣に自分の生まれた時のことを思い出したり、命は平等であるという意見を交わすことで自分の命の重さを痛感する生徒が多く見られた。	道徳教科書 「いのちを考える」
63	横須賀市	中1	道徳	「生きることの喜び」	導入として臓器移植に関する映像を見せ、本時の内容を意識づけを行った。教科書「私に宇宙のプレゼント」を読み、主人公の弱さを知ったうえで「自分」の弱さを乗り越えるために、どのように生きればよいかについて考えを深めた。その中で自分のペースで出来る事に全力を尽くすことが必要という生徒の姿が見られた。また、小さな幸せを見つけてポジティブに生きることが大切と感じた生徒もいた。	教育出版 「中学道徳1 とびだそう未来へ」
64	横須賀市	中2	道徳	生命の尊さ	私たちは、普段怪我をしたり、風邪をひくと医師の診断を受けて治療していることを確認し、それが叶わない国があることを伝えた。国境なき医師団のもとに多くの患者が訪れる中、ガスボンベが最後の一つとなり、その時の医師の判断に正しかったのか、それぞれの考えを意見交換した。教材としてではなく、自分の家族の命だったらと、自分のことに置き換え、命をについて考える生徒が多かった。命を大切にすることは、どういうことなのか、最後にもう一度考え、自分なりの答えをそれぞれが出せていた。	教育出版 「中学道徳2 とびだそう未来へ」
65	横須賀市	中2	道徳	道徳「六千人の命のビザ」	1940年、リトアニアの日本領事館にポーランドからナチスの手を逃れてきたユダヤ人が押し寄せ、日本通過のビザを求めてきた。日本側からはビザを発行しないように命令されていたが、その命令に背いて杉浦千畝はビザを発行した。この授業の中では、ビザを発行した杉浦さんの思いや、自分や家族を危険にさらしながらも六千人の命を救った杉浦さんの行動について考えた。杉浦さんの行動と自分が取ろうと思う行動を比較しながら、命の価値について考えを深めることができていた。	中学2年 道徳教科書 7「六千人の命のビザ」

66	横須賀市	中3	道徳	道徳 「私に宇宙のプレゼント」	肝臓の病気を抱えた主人公が、葛藤の末、弱さを乗り越え強く生きようとする。移植後は生きる喜びと感謝の気持ちが溢れ出る。本授業では、主人公のようにどうしようもない不安や、乗り越えることが困難な壁にぶつかったとき、どう乗り越えるかを自分事として考えられるよう展開した。経験したことのない大きな不安や困難の立ち向かい方を考えるのは難しかったが、クロームブックを活用し、情報共有をすることで、より自分の考えを深めることが出来た。	中学1年生 道徳教科書P118 「私に宇宙のプレゼント」
67	湘南三浦	中複合	道徳	いのちの授業 「いのちのはじまり」「自分を大切にする」	保健福祉事務所の保健師による「いのち」についての講演を聞いた。細胞分裂する前の卵子が紙にあげられた針の穴程度の大きさであること、今の自分と同じように生存する確率などを知った。LGBTQの問題から性とは何かを考えた。 また、性的同意やデートDVについて、SNSトラブルについて話を聞き、物事の感じ方は一人ひとり違っていいこと、いやなことは嫌だと言っていいこと、など、自分を大切にすることについて考えた。	7月、10月、12月の複数回開催。 講師は鎌倉保健福祉事務所の保健師。
68	湘南三浦	中1	道徳	あなたはひかり	「いのち」のかけがえのなさを理解し、自他の「いのち」を尊重する心や態度を育てる内容である。 「あなたはひかり 輝く地球の 一粒のひかり」という言葉をもとに、自分自身の「いのち」について多面的・多角的に考えた。	東京書籍 「新訂新しい道徳1」
69	湘南三浦	中2	道徳	いのちを考える 奇跡の一週間	「いつか終わりが来るいのち」について考え、かけがのないいのちを感じ、今を生きることの尊さを考えた。	東京書籍 「新訂新しい道徳2」
70	湘南三浦	中3	道徳	臓器移植をとおして命について考える	「もしも今自分が死んでしまうというとき、自分の心臓を他の人にあげてもいいですか。」という問いから始まり、医師、移植を受けたい子供を持つ家族のことばを読み、臓器移植、ドナーカードいのちについて考える授業。	新聞記事、 ドナーカード
71	湘南三浦	中3	道徳	生命の尊さ	受精から出産、幼児になるまでのビデオを見て、胎児がどのように育つのか、出産にはどのような工程があるのか、幼児と大人にはどんな違いがあるのかなどを学んだ。生徒同士で印象に残ったシーンを話し合い、生命の誕生と成長についての考えを深めた。その後、教材から助産師の気持ちを想像したり、ここまでの成長をさせてくれた周囲への感謝を考え、誰の命も等しく尊いことを学んだ。	【生まれてきてくれてありがとう】（道徳）
72	湘南三浦	中1	道徳	決断！骨髄バンク移植第一号	日本で骨髄バンクが作られて最初の手術が成功するまでの経緯、ドナーの葛藤を扱った資料である。生徒は白血病の有効な治療法として骨髄移植があることを知り、また移植の困難さも学んだ。主人公のような大きな仕事を成し遂げることはかなわないまでも、自分のできる小さな、他人の役に立つことについて深く考えることができた。	

73	湘南三浦	中 1	道徳	尊厳死 (生命の尊さ)	いのちのかけがえのなさを認識してもらう授業を行った。普段の自分のいのちの認識を確認したのちに、教材を読みいのちの力について触れた。いのちの捉え方やそのありがたみについて、生徒は意見を共有し、「いのちとは何か」について自分なりの答えを見出した。	教材 新しい道徳 3 東京書籍 本校職員
74	湘南三浦	中 2	道徳	自分を信じて生きる (正しく生きる)	自分の犯罪を告白した時、勝利の微笑と絶望の微笑を浮かべた主人公の気持ちを考え、正しく生きるとはどういうことかを考えた。また、自分の中に潜む弱さや醜さ、不誠実さに気づいたとき、人間としてどう向き合い、どう乗り越えて、生きて行けばよいのだろうかを話し合った。	教材 新しい道徳 2 東京書籍 本校職員
75	湘南三浦	中 2	道徳	がん教育	講師を招き、がん患者の視点からがん教育を受けた。事前に保健体育科の教員と打ち合わせをし、保健体育の教科書で知識を学んだ上で講師の話聞くことで、がんの予防や生活習慣について知り、考える事ができた。感想としても「絶対にたばこは吸わない」や「もし自分がそうなったら怖い」などの回答があり、授業を行った意義は大きかった。	講師はがん患者連合会 (使用教材) 保健体育の教科書
76	湘南三浦	中 3	道徳	生命の尊さ	今まであらゆる場面で「命は大切だ」と学んできた。その大切な命を、どう終わらせるか。それが今回のテーマであり、題材は“尊厳死”であった。教材に出てきたのは、尊厳死にまつわるエピソードと、新聞の投稿欄に投稿された尊厳死をめぐる3つの意見。そもそもなぜ命は大切なのか。尊厳死に賛成か反対か。討論ではなく意見交換をクラス全体で行う中で、安楽死に発展させたり、自分事として考え直したりし、あらゆる角度から思考した。各クラスから出た意見を抜粋してワードに打ち、授業のまとめとして全クラスに配付した。	(使用教材) 中学道徳 3 きみがいちばんひかるとき 「命の選択」
77	湘南三浦	中 2	道徳	つながる命	命とはどういうものかという問いからスタートし、二度と戻らないもの、一つしかないもの、命は親から子へとつながっているなどといった意見がでた。それ以外にも臓器提供という形で命は繋がり、関わりがあることから、決断した家族の心情や生命を尊重する心を考えさせ、クラスで意見交換をした。臓器提供が出来る出来ないという考えは意見交換はせず進めたが、命の大切さはいろいろな視点から深められ、「自ら命を絶ってはいけないということが改めてわかった」という意見をあつた。	(使用教材) 中学道徳 3 きみがいちばんひかるとき 「つながる命」
78	湘南三浦	中 1	道徳	生命の尊さ 「捨てられた悲しみ」	動物を飼っているか、飼いたいと思うかを話題にし、飼う場合のメリットやデメリットなどを話し合った。本題に入り、年間で多くの犬猫が、人間の勝手な理由で保健所での殺処分になることを伝えた。辞書に載っている殺処分の意味を伝えると、多くの生徒が、驚く様子が見られた。最後は、犬猫の命を大切守るために、どんなことをして守ることができるのかを考え、生命の大切さを伝え、考える話しをした。	(使用教材) 光村図書・道徳 パワーポイントで、動物の画像や問題を見せながら、学習した。

79	湘南三浦	中 1	道徳	命の授業 「命の木」	屋久島の原生林の様子についての文章を読んで、自然に対して感動を覚える気持ちについて考えたり、人はどうして感動するのかについて考え、理解を含めた。 自分たちの住んでいる地域にある自然や今まで出会ってきた自然を挙げ、それに対してどのように感じたかをグループに分かれて共有した。そのなかで、自然に対して感動を覚える理由は生命力を感じられるからであるということに気づいたという感想を持った生徒もいれば、自然に対して感動を感じたことがなかったが、まわりの意見を聞いて、これから意識的に自然を見てみたい、触れてみたいと感じた生徒もいた。	(使用教材) 光村図書・道徳
80	湘南三浦	中 3	道徳	命の授業	自分の生まれた日の出来事を保護者にインタビューする。名前にまつわるエピソードを聞いた。「命の理由」というさだまさしさんの映像を観て改めて命の大切さを認識し、他人のことを思いやる優しさを考える時間となった。	
81	湘南三浦	中 1	道徳	命の授業	小学校の教材「橋の上のおおかみ」を通して思いやりとは何だろうと投げかけた。友人の良いところ探しを行い、温かい言葉について考えた。フラフープの実験から協力し合うことの難しさと大切さを実感した。	
82	湘南三浦	中 3	道徳	過去に学ぶ	修学旅行で訪問予定だった広島に、サミットのために行けなかったことで、総合的な学習の時間での事前学習の代わりに、道徳の時間に、広島で起こったことを知り、今後について考える授業を行った。生徒たちは、この授業で、命の大切さについても考えることができた。	(使用教材) 自作のパワーポイント
83	湘南三浦	中 3	道徳	道徳教育 「いのちの理由」	いのちを題材とした楽曲を聞き、感想を話し合った。「幸せになるために誰もが生まれてきた」という楽曲に込められたメッセージに触れ、自分なりの「いのちの理由」の歌詞を考えて発表した。	(参考資料) さだまさし作詞・作曲 「いのちの理由」
84	湘南三浦	中 1	道徳	いのちの尊さと強く生きることの大切さを考える	東日本大震災で被災された陸上自衛官の体験を通していのちの大切さや辛いことがあっても生きようとする強さについて学んだ。生徒は今の自分が幸せであることに気が付いたり、改めて命の尊さを感じたりするなど自分自身を見つめることができた。また、困難を乗り越えようとする力を育成するレジリエンス教育講演会での学びも生かすようにした。	(使用教材) 光村図書・道徳 「ひまわり」 (参考資料) レジリエンス教育講演会
85	湘南三浦	中 2	道徳	「戦争と生命について考える」	①「国際人道支援—どんな仕事があるのだろうか」を読み、国境なき医師団の活動について理解した。 ②「課外授業 ようこそ先輩 ～国境なき医師団 貫戸朋子～」を視聴し、貫戸さんの投げかける問いについて意見交流を行った 意見交流の後、授業を通して考えたことや感想をまとめた。	(使用教材) ①光村図書・道徳 「国際人道支援—どんな仕事があるのだろうか」 ②「課外授業 ようこそ先輩 ～国境なき医師団 貫戸朋子～」 (1999年NHK放送)

86	湘南三浦	中2	道徳	生命の尊さ	臓器移植を決断した両親と臓器移植に関する資料を通して、臓器を移植する両親の苦悩や命とはどういうものかを考えた。また、資料の他に臓器を受ける、移植するを経験した家族の映像を見て、自分の命が自分だけのものではないことを改めて考えると共に生命が儂く尊いものであるということを実感した。	(使用教材) 光村図書・中学道徳2 「きみがいちばんひかるとき」
87	湘南三浦	中2	道徳	ありがとうの気持ちを伝えよう	人から「ありがとう」と言ってもらえると、自然と温かい気持ちになれる。この道徳の授業では、行事や日頃の何気ないやりとりの中で感じた「ありがとう」を言葉に書いて、相手に伝える授業を行った。クラスメイト、先輩・後輩、先生、家族に日頃のできごとを思い出して、ありがとうカードを書いた。(ありがとうカードの大きさは、はがきの半分くらいの大きさ。1人に10枚程度配り、それぞれに花束などのかわいいイラストが書いてある。)	ワークシートを用いた
88	湘南三浦	中2	道徳	生命の尊さ ～泣きすぎてはいけない～	亡くなった祖父から孫へのメッセージを通じて、「生きる」ということについて考えさせ、生命を尊重しようとする心情を育てるねらいで実践した。 「生きる」ということについて「おじいさん」の思いや自分の経験、友達との意見交換を通じて、さまざまな角度から考えを深めようと思った。また、「おじいさん」の思いにふれ、自分の命の尊さを見つめたうえで、自分はどうか生きていかについて、考えさせた。	(使用教材) 光村図書・中学道徳2
89	湘南三浦	中1	道徳	あなたもわたしも大切な人	最初に、基本的自尊感情を測った後、話さずに誕生日順に並ぶ「バースデーライン」を行った。次に、自分の名前をひらがなで、利き手でないほうの手を使って、できるだけ丁寧に書き、それを見た感想を共有した。その後、他の人に話してもいい自分の名前にまつわる話を1分間、隣の人に傾聴してもらった。最後にもう一度、基本的自尊感情を測って、最初の結果と比べた後、授業の感想を書いた。生徒からは、「生まれてきて、誕生日も名前も授かれて、幸せだと思った。」「自分が思っていたよりもずっと私は周りに大切にされて生きていたんだなと思った。」「自分はこのままでいいんだと思った。」といった感想が多数寄せられた。	講師は、校長。 教材は、「人権学習ワークシート集 一人権教育実践のために 第14集 (小・中学校編)」の中の2つのアイスブレイキング(「バースデーライン」・「わたしの大切なまえ」)
90	湘南三浦	中2	道徳	残された時間を精一杯生きた女子高生のメッセージ	14歳で白血病を発症し、治療を続けながら日々の様子をSNSに発信した高校生について特集した動画を視聴した。16年という短い生涯の中でも、前向きにそして懸命に今を生きている様子を見てから、命を大事にすることは、生きるとは何かを考えた。生徒にとって年代的にも近い存在であり、共感する場面も多かった。生徒自身の日々の生活や自分を大事にすることを見直す機会になった。	NHK とちスペ 残された時間を精一杯生きた女子高生のメッセージ 白血病と戦った日々の記録
91	湘南三浦	中3	道徳	生まれてきてくれてありがとう	助産師さんも母親も出産のときをどのような気持ちでむかえるかを考えることで、命の尊さ(命の誕生が神秘的であること)を学んだ。出産が無事に成功するかは、母親のがんばりとともに、赤ちゃんのがんばりもあり、「母と子の共同作業」である出産の手助けをする助産師さんの日々の様子を知ること、生命誕生の不思議さ、神秘的であること、そして周りの人への感謝の大切さなどを学んだ。	東京書籍 「新しい道徳3」

92	湘南三浦	中3	道徳	生命の尊さ	教材を通して、「出産は母親と赤ちゃんの頑張りが必要であり、両者の共同作業とも言えること」「助産師はいくら経験を積んでも、奇跡的かつ神秘的な出産に、毎回真剣勝負で立ち会っていること、だからこそ、赤ちゃんが無事に誕生した瞬間に立ち会った人全員が、感謝の念を抱くこと」を学んだ。また、出産を体験した担当教諭からの話を聞くことで、生徒は改めて出産を自分事と受け止め、この世に生を受けたことはたいへん素晴らしいことと再認識していた。	東京書籍 新しい道徳3 生まれてきてくれて、 ありがとう 出典『人権教育プログラム』東京都教育委員会2008年
93	湘南三浦	中1	道徳	桜に集う人の思い	教科書の内容に触れながら、指導者自身が東日本大震災から1年後の研修(宮城県を訪問)に参加し、経験したことを生徒に伝え、命の大切さ、残された人の思いを伝える授業を行った。	・新しい道徳1 「桜に集う人の思い」 ・東日本大震災 震災後1年研修
94	湘南三浦	中2	道徳	猟師になりました	個人ブログ「ちはるの森」でウサギを解体していた内容をブログに挙げたところ、コメント欄が炎上してしまった内容について考えた。ブログを書いていたちはるさんが「命のことについていろんな考え方があって当然」としながらも、「人間が生きる上で命を奪わずに生きることは不可能」として話をしていることから、生徒たちには改めて命について考えた。	・「ちはるの森」
95	湘南三浦	中3	道徳	生まれてきてくれてありがとうー助産師からのメッセージ	授業者自身の出産体験を中心に、生徒たち自身が、自分がどのようにして生まれてきたのかを考えた。	
96	湘南三浦	中2	道徳	心理教育 「ストレスとの付き合い方」	「よりよく生きる喜び」を意識したスクールカウンセラーによる心理教育を行った。ストレスチェックと自分にあったストレス対処法を見つけながら、自分を大切に思うことや他者を気遣ったり向き合ったりすることへの価値を確かめていった。	
97	湘南三浦	中2	道徳	つながる命	脳死となった女兒の両親が女兒の臓器移植を決断したことを取り上げた新聞記事を読み、「命」について考えさせた。授業では、臓器移植について基礎知識や、4つの尊重されるべき気持ちなどについても生徒が調べ学習を深めた。	「日本臓器移植ネットワーク」 公式サイトより
98	湘南三浦	中1	道徳	心臓突然死	健康だと考えられていた人が、突然致死的心室性不整脈に見舞われて、その不整脈が原因で心臓が正常に収縮することができなくなり脳に血液が循環せず死に至ってしまうかもしれない心臓突然死は、年間に約6～8万人いる。私たちには、助けられる命がある。心臓マッサージやAEDについて知り、大切な人の命を守るためにできることがあることを学んだ。	

99	湘南三浦	中3	道徳	「あの日生まれた命」	東日本大震災で多くの命が失われたあの日、被災地で110を超える新しい命が誕生していた。家族や故郷が一瞬にして奪われたあの日、大切な人を亡くした悲しみの中で、自分だけが喜べないという母親。「希望の『君の椅子』」プロジェクトは、「生まれてくれたありがとう。君の居場所はここにあるよ」との思いを込めて椅子を送るプロジェクトであった。…読み物とNHK番組のダイジェスト視聴を通し、いろいろな立場の人の気持ちを想像し、命の大切さについて考え、それぞれの思いや考えをロイロノートの掲示板に発表した。	道徳教科書 「きみぎちばんひかる とき」 光村図書
100	湘南三浦	中複合	道徳	北朝鮮による日本人拉致問題	授業の前半は、政府の拉致問題DVDを視聴し、事件の概要と必死の救出活動のあらましをつかんだ。 後半はプリントで補足しながら、めぐみさんやご家族の気持ちなどをより深く考えるようにした。 めぐみさんやご家族の思いを考えることを通して、家族への敬愛の気持ちを深め、家族の一員として、家族とともに生きていこうとする気持ちや家族の幸せを大切にしようとする気持ちを育てられた。	「拉致問題と人権」 ワークシート(自作) (「めぐみと私の35年」 横田早紀江)より一部引用 北朝鮮による日本人拉致 問題啓発アニメ「めぐ み」(政府拉致問題対策本 部) 全学年・全クラスで実施
101	湘南三浦	中複合	道徳	人権教育 「平和学習」	○1、2年「語り継ぐ戦争～今こそ伝えたいこと～」 ○3年「歴史は今もつながっている～少年はなぜ、特攻で死んだの?～」 戦争の実態、時代背景や戦争が人々に与えた影響を知った。特攻隊として身内の方を亡くした講師の先生の話の聞き、平和の貴さと命の重さを感じた。生徒達は戦争を通して、いのちの大切さを考え、今、自分にできることを考えた。そして、戦争について考え、平和とは何かを考える貴重な時間でした。	講師は三浦市在住、元 小学校教員、現在、戦 争の語り部として活動 している方。 対象：中学1～3生
102	湘南三浦	中2	道徳	「めぐみ」	国が以前配付した資料「めぐみ」を利用して、大切な命、そして人権がおろそかに扱われたこととして、拉致被害についての理解を深めるとともに、国際社会の困難さから、解決に無用な時間がかかることを通して、関係するご家族がどんどん高齢化して、その命があるうちの解決があるのかが問われていること、解決が急がれる状況にあることについて、意見交流を通して、考えを深めるよう授業実践を行った。	学年の担任副担任等が ファシリテーターとな り、生徒に取り組みせ た。グループによつて は、東京での平和学習の 下敷きにしたところもあ る。
103	湘南三浦	中2	道徳	命の重み	ひとつの命の重みについて、映像を観ながら講師である神奈川被害者支援センターの所員の講話を聴きながら考える内容であった。同年代の「死」について考えるとともに、その死によっていろいろな立場の考えなどの話も聞くことができた。	講師：神奈川被害者支 援センター、茅ヶ崎警 察署
104	湘南三浦	中1	道徳	生命の尊さ	阪神淡路大震災で妹を亡くした女性の実体験から、自分が「誰か」に支えられていること、「人の命」は儚いこと、だからこそ「誰か」を思いやることの大切さを学ぶ。 生徒間で日常的に「しね」などの暴言が聞かれる。「明日」が確実に来るとは限らない、「友だち」や「自分」が明日も元気でいられるとは限らないこと、儚い存在であることを実感し、日々の関わり方を考えるきっかけを作る。	あの日を忘れないはる かのひまわり(PHP研究 所) 阪神淡路大震災から2 9年(関西テレビNEWS)

105	県央	中3	道徳	「塩むすび」	東日本大震災の後、避難所で炊き出しの手伝いをしていた主人公の思いから、被災地で生きる人々について考えた。実際に地震が起きた時や津波の映像、生徒と同じ中学三年生が行った、震災直後の卒業式での答辞を見たことで、被災し、家族や友人などを亡くしても、懸命に生きていく人々の思いを捉えるとともに命について改めて考えを深めていた。	日本文教出版 「あすを生きる3」
106	県央	中1	道徳	生命誕生	生命はどのようにして生まれ、どのように受け継がれるのか。ビデオ「生命誕生」を視聴し、受精・着床・胎児の成長の過程を知る。視聴しながらワークシートの穴埋めをする。以下、DVDの内容 ・私たちの臓器がどうやってできていくのか。 ・山中教授が発見した「iPS細胞」によって生命の神秘（臓器がどう作られていくのか）を見つけることができた。 ・受精卵から出てくるメッセージ物質で心臓、肝臓、など次々と作られていく。 ・体の中には巨大な情報ネットワークが存在し、臓器同士が会話して作られていく仕組みがわかる。 新しい生命は独立した人間として生きる権利を持ち、保護され大切に育てられなければならないことを知る。そして自分を大切にするとともに他人も大切にすることの重要さと、一人ひとりが生命を継承する存在だということを実感することができた。	「生命誕生」
107	県央	中2	道徳	生命の尊さ	かけがえのない命を与えられていることに気づいて感謝し、自他の生命を尊重しようとするを目的として授業を実施した。今回は「自分が生きていると感じる瞬間は何か」という発問を行い、班で話し合いを行った。そして本文を読み、生きていると感じることができるのは命があってこそそのことであり、その命が当たり前ではないことを学んだ。	
108	県央	中3	道徳	生命の尊さ	道徳の「エリカー奇跡のいのち」という教材で、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重することについて考えた。親が命をかけて守ってくれた命を大切にすることを教材から感じる事ができた。生徒の振り返りシートには、「いのちというのは一人では成り立たず、たくさんの人の心優しい支えがあるから成り立つ」「家族だけではなく、その前の世代のいのちをつないできてくれた人々にも感謝したい」などと書かれており、いのちのつながりを感じる事ができた。	中学道徳 あすを生きる
109	県央	中複合	道徳	人権授業 いじめ防止宣言	2時間の授業を使って各学級のいじめをなくすために自分のクラスの約束事を作成する。 1時間目の授業で、学年に合わせたいじめについて考える授業を実施。 2時間目の授業で、学級内で話し合いを行いクラスのいじめ防止の標語を決定。またその中でできる3つの約束事を決め、掲示物を作成する。	全学年・全学級にて実施した。 その内容の共有や振り返りを行うことで継続的な意識をもつことができた。

110	県央	中1	道徳	道徳教材 「あふれる愛」	マザー・テレサの言動の底にある深い人間愛の精神をとおして、生命の尊さについて学んだ。生命はかけがえのない大切なものであり、決して軽々しく扱われてはならず、自分たちは多くの生命によって生かされている。平気で人を傷つける言葉を言ったり、自分に自信をもてないために簡単にあきらめの言葉を言ったりせず、生きることの意味と命を助けることの意味を考えることができた。	教材：あすを生きる1 (日本文教出版)
111	県央	中3	道徳	かけがえのない命について(臓器移植)	臓器移植推進本部の方を講師として招き、臓器提供という現代的な課題をとおして、いのちの尊さを深く理解し、自他のいのちをかけがえのないものとして尊重する態度を育てる。	かながわ健康財団 アイバンク・臓器移植推進本部(日本臓器移植ネットワークを通して)
112	県央	中2	道徳	生命の尊さ(がん教育講演会)	がん経験者の方にお越しいただき、講演をいただいた。講演では、経験をもとに、がんと知ったときの気持ちやその時の行動などを教えていただいた。がんの怖さや命の大切さ、家族を思う気持ち、普段から気を付けなければならないことなど様々なことを学ぶ機会となった。	講師は、県がん患者団体連合会から1名お越しいただいた。
113	県央	中1	道徳	いのちの価値とは	学校(社会)には様々な考え方をもっている人がおり、人種や人権についても考えさせた。ただ、そんな多様な人でも「いのち」については誰もが共通する大切なものであることを伝えた。最初に、子どもたちがイメージする「いのち」を可視化し、災害等の事例を紹介しながら、いのちを大切にすることや守るとはどんなことなのかを考えさせた。最初のイメージは「生きている証」「心臓が動いていること」等とのが「いのちは自分だけのものでない」「生かしてもらっているもの」とイメージに変化があった。次のテーマとして、いのちが奪われることはどんなに辛いのかを考えさせ、いじめ問題にも関連させていく。	
114	県央	中3	道徳	性教育講演会「大切にしてほしい自分の心と身体」	「大切にしてほしい自分の心と身体」というテーマで助産師に、性についての悩み、デートDV、多様な性のあり方などについて講演していただいた。事前アンケート、事後の振り返りシートの記入も行った。	講師 助産師
115	県央	中2	道徳	「つながる命」	脳死となった女の子の両親が、女の子の臓器提供を決断したことを取り上げた新聞記事を読み、両親の父母への手紙を書くという活動を通して、「命」について考え、自他の命を大切に生きていくとすることや育てることをねらいとした。女の子の家族の気持ちを考えることで、自分だったらどうするか、どう考えるかという自分ごとにおきかえて考えることができた生徒が多くいた。また、父母への手紙を書く活動では、「自分だけでなく、他の人の命も大切にしたいと思った。」「命は一つではなく、リレーのようにつながっていくものだった」「軽々しく『死』や悪口を言う人のことを今までスルーしていたけど、これからは止めていきたい」など、命について、自分ごととしてとらえ前向きに考えている生徒が多かった。	光村図書 「中学道徳2」

116	県央	中3	道徳	尊厳死の是非を巡るいのちの学習	祖父の尊厳死を巡って葛藤する主人公や主人公の家族の思いに触れ、人の終末の在り方について考えさせた。また、考えさせる際には、新聞の投稿欄に寄せられた賛成派、反対派双方の意見を紹介し、それぞれの考えを踏まえたうえで、自分の意見や考えを書かせた。改めていのちの在り方について考えを深めていた生徒が見られた。	光村図書 「中学道徳3」
117	県央	中複合	道徳	避難所運営ゲーム(HUG)をやってみよう。	7月と9月の2回に分けて防災を自分事として意識をさせながら実施した。このゲームを通して避難者の属性を考慮しながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、自由に意見を述べかた話し合いながら避難所の運営を学ぶことができた。	1年生から3年生までの縦割り6名程度に分けて小グループをつくり、避難所運営ゲーム(HUG)に取り組んだ。教員は共同探究者として、声をかけながら巡回した。
118	県央	中2	道徳	そこにいるだけでいい(生命の尊さ)	死産と分かっているながら出産しなければならない母親の悲しみを通して、生まれること、生きていることの意味について考え、自他の生命を尊重しようとする心情を育てた。出産の映像視聴や実際の母親の声を聞き、真剣に学習に取り組む姿が見られた。反抗期という難しい時期でありながらも、自分を生み育ててくれた人への感謝の気持ち、命をつないでいくということを考えて授業を行った。	(教材) 新・中学生の道徳 明日への扉2 株式会社学研教育みらい
119	県央	中1	道徳	たとえばくに明日はなくとも(生命の尊さ)	幼少期から筋ジストロフィーにおかされ、23歳で亡くなった男性の生き方を通して、生きることの尊さに気づくことをねらいとした。病気の進行で体が不自由になっていく中で、不安と絶望の日々を送るが、余命僅かである事実を知り、残り少ない生命を悔いなく生きていこうとさまざまなことに取り組み始める男性の姿から、「もし自分が余命僅かだったらどのような生き方をするか」という問いを自分事として考えるよう促した。生命にはいつか終わりがあることを自覚し、一度だけの人生を悔いなく生きていく意欲を高めた。	(教材) 新・中学生の道徳 明日への扉1 株式会社学研教育みらい
120	県央	中1	道徳	生命の尊さ	題材「たとえばくに明日はなくとも」を通して、「自分はいったい何歳まで生きられるのか?」という主人公の気持ちについて考えた。	明日への扉
121	県央	中3	道徳	道徳教育いのちの重さ	登場人物の私が多くの命を口にしてきたことに気が付いたように、生徒たちにも、日々当たり前のように口にしている食事において、多くの命をいただいているということに気づかせられるよう話し合った。それも踏まえて、食事の前の「いただきます。」という挨拶についても考えさせた。また、実際に農業高校で、自分たちでカモを雛から育て自分たちの手で絞めて命をいただく、という活動を行っている動画を見させた。より命の重さをイメージしやすいような工夫を施した。	新・中学生の道徳 明日への扉3 (株式会社学研教育みらい)
122	県央	中2	道徳	道徳教育安全な生活	主に防災に焦点を当て、生徒たちも知る、日本が大きな被害を受けた東日本大震災を取り上げた。震災で多くの命が奪われた事実とともに、正常性バイアスについても触れながら、自分の命を守るための備えや意識すべきことなどについて話し合った。自分ができる対策について考えるのはもちろん、人として大丈夫だと思いたいバイアスについての話は、生徒たちにとって新しい気づきとなったようだった。その後、より身近な学校内での危険に焦点を変えていき、日ごろの身の安全についても考えた。	新・中学生の道徳 明日への扉2 (株式会社学研教育みらい)

123	県央	中3	道徳	支えあう命	中学生の時期に突然余命宣告を受ける状況を自分の事のように受け止めることは難しいと思われるが、あえて道徳の授業で「余命ゼロ 命のメッセージ」の資料を取り扱うことにより、余命宣告を受けた男性の宣告を受けてからの生き方を一人ひとりが考え、互いに支えあって生きていることや精いっぱい生きることの大切さを考える契機とした。	
124	県央	中1	道徳	助産師が伝えるいのちのはなし	保健体育の学習において、二次性徴の学習を終え、男女の身体の違いや自分自身の身体の生理を理解できたところであり、互いを尊重する気持ちが育ち始める頃にこの機会を設定した。生命誕生について、現役助産師の体験談や実物大の赤ちゃんの人形を使って視覚的、体験的に理解し、一人ひとりの誕生がかけがえのない奇跡ということを確認した。その後、クラス等でグループワークすることで「いのち」の重みについてもふれ、「いのち」について改めて考える機会となった。	講師は、神奈川県助産師会の現役助産師。
125	県央	中3	道徳	命のトランジットビザ	「命のトランジットビザ」という授業を通して、命の大切さやその瞬間その瞬間をどう大切に生きてゆくかを考えさせた。生徒らは命の大切さはもとより、話の中にある助け合いについて考えを深める生徒が多かった。	学年職員による道徳の授業による
126	県央	中1	道徳	近年の自然災害(地震)を学び尊いいのちや人とのつながり、安全を考えた行動について考え深める	道徳の内容項目「生命の尊さ」を扱い、1995年1月に起きた「阪神淡路大震災」、2011年3月「東日本大震災」、2024年1月「能登半島地震」などの震災の様子を捉え、命の尊さを考えた。授業者が1999年9月に在外派遣時にM7.6の台湾大地震を経験しているのので、その実際の現象・状況・救命救急対応なども交えて授業展開した。実体験の話聞き「子どもを亡くした親の気持ちの辛さ」「体験したことのない自然災害をイメージし、身を守ること、助け合うことの判断力・行動力を自分も持ちたい」など考えを深めていた。	教材：道徳「あすを生きる」(1年)より「ゆうへー生きていてくれてありがとうー」
127	県央	中3	道徳	「希望」生命の尊さ	東日本大震災の被災者である筆者の、生命尊重に関わる体験に基づく作文。筆者は、故郷の家族の生死を心配する母や一命をとりとめた祖母の言葉に心がざわめき、懸命に復興に向けて働く人々の姿から、今までの自分の生き方を振り返り、毎日を精一杯生きていこうと決意する。生命の連続性や有限性、尊さを深く考えさせる教材。命が大切で有限なものだということはわかっているが、他の人の命があって自分の命があるといった連続性について考えが及ばないことが多い。教材やイラストを使い、生徒同士の話し合い活動を通して理解を深めることで、今まで考えていた「生命」がより大切だと感じ、今後の生活につなげていきたいと思う生徒がいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科書 ・フォームでの意見集約 ・youtubeで震災の様子をまとめた動画を使用。
128	県央	中1	道徳	命のはなし	助産師さんを講師に招き、生命誕生の仕組みや生命の尊さについてのお話を聞く。赤ちゃん人形を抱っこしたり、妊婦ジャケットを着用することで実感を持つ。	講師：SUNFLOWER助産院院長 助産師

129	県央	中1	道徳	命の大切さと生命の誕生について	市保健師の講話と、体験活動（胎動体感システム体験、妊婦体験、赤ちゃん人形を使った新生児のオムツ替え体験、胎児の成長モデルと母子手帳についての学習）を通して、妊娠中の母親の身体の変化や胎児と新生児の成長について学んだ。 体験では、妊娠中から出産後の親の生活や気持ち、新生児について具体的に考えることができた。講話の中では子育ての大変さについても話があり、「親になる覚悟」についても考える様子が見られた。自分も周りの人も親に大切にされて育ってきたということに気づき、親に感謝する気持ちを持ってたという感想が多かった。	【講師】 綾瀬市健康こども部 健康づくり推進課 保健師 【教材】 胎動体感システム、胎児の成長過程モデル、赤ちゃん人形等
130	県央	中1	道徳	命の大切さと家族について	授業の初めに、各自で自分の誕生にまつわることで知っていることを思い出してから、映画「ぼくの生まれた日」を鑑賞した。作品中の『親に怒られて家出しようとした時』の主人公の気持ちや、『自分が生まれた日の様子を見て自分が親に大切にされていることに気づいた時』の主人公の心の動きを追い、最後にこういった主人公の体験と生徒ら自身の日常を重ねて考えた。中学生は誰もが親に反抗的な気持ちを持つこともある年齢だが、映画を通して親への感謝の気持ち、家族の愛情、命の大切さについて再確認した様子が見られた。	【資料名】 映画「ぼくの生まれた日」
131	県央	中2	道徳	「生命の尊さ」	右大腿骨骨肉腫を患った少女が、生きる希望を失わず、家族とともに病気と向き合い、闘ってきた実話に触れることで、限りある生命を懸命に生きることの大切さを理解し、互いに支え合って生きようとする実践意欲を育てられるように授業実践を行った。 授業の後半では、少女が市の弁論大会で発表を行った作文「命を見つめて」を受けて、生徒から少女宛に手紙を書いた。中には、少女の生きる強さに感銘を受け、自分もこれから力強く生きていきたいという内容の手紙も多数あった。その手紙を、県教委主催の第11回「いのちの授業」大賞に応募した。	日本文教出版 中学道徳 明日を生きる 2 p 160～ p 167
132	県央	中3	道徳	「エリカー奇跡のいのち」	第二次世界大戦中、強制収容所にユダヤ人を送る車内での出来事である実話を読み、切実に命について考えた。「死」に向かう車内で母親は我が子を「生きてほしい」という望みをもって車外へ放り投げるのが、本当に正しい判断であったのか戸惑う生徒もいた。「生命を受けた自分のこの一つの命が、とても大事だと思った」と書いた生徒もおり、生命の尊さを感じていた。	日本文教出版 中学道徳 明日を生きる 3 p 48～ p 55
133	県央	中1	道徳	生命の尊さ	おじいちゃんが入院してしまったことで一人になった「ばあば」は、自らも九十歳を過ぎ、一人で暮らす苦勞を考え「僕」たちの家で一緒に暮らすこととなった。昔は「僕」が「ばあば」に支えられて生きていたが、今は「僕」が「ばあば」を支える側となる。生命は連綿とつながっており、関わり合い、支え合ってきたことを深く自覚するとともに、与えられた生命を精一杯生きようとする態度を養った。	日本文教出版 中学道徳 明日を生きる 1 p 50～ p 55
134	県央	中2	道徳	生命の尊さ	重い病を患った主人公が、生きる希望を失わず最期まで病気と闘った実話から「今、こうして生きていることは当たり前ではなく、幸せなことである」という気持ちを実感し、自他の生命を大切にしながら生きていこうとする実践意欲を育てた。	日本文教出版 中学道徳 明日を生きる 2 p 160～ p 167

135	県央	中1	道徳	拉致被害者理解授業「めぐみ」	拉致被害者に関する動画を視聴し、拉致問題の概要を理解させるとともに、被害者の生命や人権について何が問題なのかを考えさせた。	【教材】 文部科学省選定作品 北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ
136	県央	中3	道徳	いのちを考える	極限の状況にあっても、自らの生命を信じ、互いに支えあって生き抜いた人々の姿を通して、自他の生命を尊重し、生命のある限り、与えられた生命を大切に生き抜いていこうとする態度を育てた。	書籍「くちびるに歌を持って」
137	県央	中3	道徳	「生まれてきてくれて、ありがとう」	道徳の教科書と動画を使いながら授業を行った。助産師のメッセージにこめられている、生命の誕生に対する責任感や喜び、感謝の念、生命の神秘性を通して、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする態度を育てることを目的とした。	
138	県央	中3	道徳	「命を大切にすると何か？」	教材を通して目と耳が不自由な陶芸家の生き方に触れ、「命を大切にすることとはどのようなことであるかを考えた。教材を読む前に生徒にこの問いについて質問をすると、「安全に気を付けること」「人を傷つけるようなことをしないこと」などの意見が出た。授業の中では、自分の命、そして他者の命や、人がそれぞれ持つ生き方について個人で考えたり、小グループでの意見交流を行ったりし、考えを深めた。授業の終末、再び同じ問いについて振り返りを書かせると、「命を大切にすることは、ただ命を落とすことがないように気を付けるということだけでなく、命のある限り、夢や目標に向かって進んでいこうとする気持ちが大切であると分かった」というような、命についての新たな視点を示す生徒が多かった。	「たとえばくに明日はなくとも」 (東京書籍 新しい道徳3)
139	県央	中複合	道徳	平和教育 「広島平和式典参加報告会」	本校の道徳では「平和」(内容項目C-18国際理解・国際貢献)を重点指導目標の一つとして、年間を通じて平和教育を行っている。1学期に各学年ごとに内容項目C-18に沿った道徳授業を行い、8月に広島平和式典に学校代表生徒が参加した。その報告会を清川村立宮ヶ瀬中学校と合同で行った。代表生徒は広島で学んだこと、いのちの大切さについて感じたことなどを発表し、その他の生徒は年間の平和学習を通じて考えた「自分が平和に向けてできること」を書き、共有した。	生徒による報告会 中学1年生～3年生が参加 清川村立緑中学校と清川村立宮ヶ瀬中学校が合同で実施
140	県央	中複合	道徳	いのちの授業・細胞	担任外の職員の授業で、理科の担当が細胞の性質という切り口でいのちの大切さを考える授業を行った。人間はたくさんある細胞がコミュニケーションを取り合いながら生命をつないでいるわけだが、自殺する人は脳が死にたいという判断を下して自殺するのだが、脳の細胞以外の細胞は生きたいと思っているので、一部の細胞の判断だけで決めていいものか、という投げかけを行った。	本校は道徳の授業を全校で実施している。全校生徒3名
141	中	中2	道徳	生命の尊さ	命についての詩と、出産を撮影するフォトグラファーの文章や写真を通して、「生きている」ことの尊さについて考え、生命を尊重しようとする心情を育てる。	道徳の教科書を使用し、学級担任が指導した。

142	中	中複合	道徳	命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～	講演で、スキーでの大事故をきっかけに、全身マヒの体になったが、その後、懸命のリハビリにより社会復帰できるまでに回復し、事故をきっかけに人生も人生観も大きく変化した様子をお話くださった。命の大切さ、生きていることの素晴らしさ・両親・家族・仲間の大切さなど、普段の生活の中で当たり前と感じ、忘れかけている大切な幸せについて考える内容であった。生徒の心に響くものであった。	腰塚勇人さん（元・中学体育教師・養護学校教員、「命の授業」講演家） 全校生徒を対象に、生き方を学ぶ講演会を実施
143	中	中2	道徳	生命の尊さ	2学年では、本時に活用した教材は「漫画教材」で、いじめに関わるものであった。今回は「どれだけみんなの命が多くの人にとって大切にされているものなのか」を感じてもらえるような教材とした。いじめと命が関わると、自死のことを想起させることが多いが、生徒たちの中にも、何人かそのことについて感想を寄せていた。温かみがある教材から、いじめをやめたい、どの人も誰かに大切にされている大切な命であることを考えるきっかけになった。	2年生道徳教材 「あの子のランドセル」
144	中	中3	道徳	生命の尊さ	3学年では、教材「命の選択」をもとに授業を実施した。延命治療を拒否する祖父に対し、家族はどのような判断をするのかを問う教材であった。評価項目は「教材に書かれた考えにふれ、話し合いなどを通して、生命の尊さについてさまざまな面から捉えた」及び「教材と自分とを重ね合わせながら、尊厳死の是非について自分なりに考えることで、自分が生命を大切にすることについて考えをもととした」とした。担任が自身の経験などを踏まえて講話を進め、生徒に延命に関しどのような判断をするかを問うたところ、多くのクラスでは「祖父（患者）の意思を尊重する」という意見が多かった。	3年生道徳教材 「命の選択」
145	中	中3	道徳	命と向き合う	「なぜ命は大切なのか」という問いについて、小学校入学から今までの約9年間で感じた思いを伝え合った。その後、生き物の命の特徴として、偶然性・連続性・有限性を取り上げ、5月に子どもが生まれた担当教員の話も交えて命の尊さを感じ、より良く生きて次の世代にバトンタッチしていくために必要なことは何か考えた。	担当教員による授業 教材：3年道徳教科書 「命と向き合う」 (光村図書)
146	中	中複合	道徳	「つながるいのち」	「臓器移植」を題材として、中学生を主人公としたドナーの存在や臓器移植の意思表示について考えさせる映像資料を見て、臓器移植の基本的な知識を身につけた。 また、自分自身や自分の大切な人が脳死になった時、臓器提供をするかどうかについて考えさせた。自分自身が脳死になったときは臓器提供をしたいと考える生徒が多かったが、自分の大切な人の臓器提供については考え込む生徒も多かった。議論を通して臓器提供の意思を示しておくことの重要性を実感していた。また、家族と臓器提供について考えるきっかけづくりをすることができた。	中学1～3年同様の内容で実施 「つながるいのち」 (出典公益財団法人日本臓器移植ネットワーク)

147	中	中3	道徳	防災学習 「福島第一原発の事故について」	<p>「希望の牧場」という絵本で、東日本大震災の影響で起きた福島第一原発の事故、またその影響によって住民が受けた苦難についてふれた。</p> <p>牧場主が「売れない牛を生かし続ける」ことについて、どう思うかをグループで話しあわせた。「自分の生活を犠牲にして、牛の命を守るということは大切なこと」という意見と「牛の命よりも自分たちの生活や命を守ることが大切」という意見で生徒たちが議論する様子が見られた。</p> <p>また、タイトルの「希望」とは何かという発問には、「牛が生きていることが希望なのだ」という考えをもつ生徒が多く見られた。</p> <p>絵本なので、被災地の様子や、牛の世話をする様子など具体的なイメージがもてた。</p>	講師は学校職員 (参考資料) 岩崎書店「希望の牧場」
148	中	中3	道徳	防災学習 「被災地復興に向けて」	<p>東日本大震災被災地の方の講話を動画で視聴した。その中で、当時の被災状況について知ることができた。また「この大震災を教訓に、自分たちの命を守るためにどんな準備をするべきか考えることが大切」という話や「津波てんでんこ」という言葉の意味を知り、生徒の防災に対する意識が深まった。また同時に「自分たちの命を自分たちで守る」という意識や「大切な人の命も自分たちが守る」という意識も深めることができた。講話の様子を撮影した動画で、長時間だが内容としては良かった。</p>	講師は学校職員 (参考資料) 湘南ケーブルネットワーク「地域きずなプロジェクト」
149	中	中1	道徳	生命の尊さ 「捨てられた悲しみ」	<p>犬や猫の殺処分についての知識を深めるとともに、尾崎たまきさんの「残り少ない、命のために」を読み、命の尊さ、自他の命を大切に生き方について、考えた。身近なペットの話であるため、話し合いの中で、命が有限であること、命を大切にしようといった意見を出す生徒がみられた。</p>	中学道徳1 「捨てられた悲しみ」
150	中	中1～中3	道徳	「いじめ防止教室」	<p>各クラスに1名ずつ弁護士の方を講師に招聘し、弁護士の立場から、「いじめは人権侵害で許されない」ということを授業で伝えていただいた。</p> <p>実際に起こったいじめの事件を提示することで、加害者や被害者の具体的な気持ちを生徒に考えさせ、いじめをなくす方法について、一人ひとりが考えた。</p>	講師：弁護士法人アディーレ法律事務所より3名
151	中	中1	道徳	命の尊さについて考える	<p>東日本大震災という未曾有の災害で家族を失った陸上自衛官の父親。震災直後は、生きていて欲しいと切に願いながら、期待と不安の入り混じる気持ちで家族の安否確認に奔走した。その後、家族全員の死亡が確認されてからは、失意の中で暮らす日々が続いた。</p> <p>震災から2年後、「はるかひまわり」と呼ばれる、ひまわりの種があることを知り、それを育てる中で、前向きな気持ちを取り戻し、震災の語り部としての活動を始めた。教材を通して、生きていることを当たり前のことと捉えていた生徒達に、生命の重さや唯一性、有限性を考える機会にすることができた。同時に日々の生活を大切に希望に向かって力強く生きる気持ちを持つことの重要性を学ぶ機会とした。</p>	授業者：各学級担任 題材名：「ひまわり」 教材：中学道徳1 きみが いちばん ひかるとき かど まどか著 光村図書

152	中	中1	道徳	命の尊さ	<p>東日本大震災、阪神淡路大震災をめぐる実話を通して、生命の尊さについて考えさせ、自他の命を大切にしていこうという内容の道徳教材。</p> <p>当たり前で過ごしていた日常が当たり前ではないこと、普段の生活の中で、日々を悔いのないように生きる大切さを感じ、命の大切さや人との繋がりを学んだ。</p> <p>当時の映像や、震災により一変した町中の画像などを見ることで、生徒たちもより経験した人物の心情などに寄り添いながら考えることができた。また、教材の中にある、いのちの歌を動画で流すことで、歌の中にある命の大切さへの思いも感じとることができ、学びを深められた。</p>	中学道徳「きみがいちばんひかるとき」光村図書
153	中	中1	道徳	生命の尊さ・動物愛護	<p>犬猫の殺処分の現状を学び、生命の尊さについて考えた。日本愛護協会の1枚のポスターからペットを飼う責任について考えることで、命の大切さ、重さについて話し合うことができた。飼わないことも生命を大切にすることにつながることを学ぶことができた。また、殺処分をなくすために、動物保護や愛護協会の存在を知ること、命を守る活動をしている団体についても学ぶことができた。</p>	中学道徳「きみがいちばんひかるとき」光村図書
154	中	中複合	道徳	自然災害といのち	<p>本校では、全学年で総合的な学習の時間を中心に防災学習に取り組み、自然災害が起こった時に自分や家族、仲間を守るための術を身に付け、防災意識を高めてきた。総合的な学習の時間で培ってきた学びとリンクさせ、全校で1か月間、「自然災害といのち」というテーマのもと、道徳の授業を行った。授業で扱った内容はすべて、東日本大震災に関するものである。津波についての言い伝えを絵本で紹介したり、実際に被災された方の講演を聞いたり、津波で家族を亡くした人達の思いを考えたりする活動を通して、生徒はかけがえのない生命の尊さについて、生命の連続性や有限性などの視点から深く考えていた。</p>	<p>10月の道徳は、全学年共通の指導案で授業を行った。</p> <p>(使用教材)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本「津波てんでんこ」 ・埼玉県道徳教育資料集より「天使の声」 ・作文「あなたはそこになさい」 <p>(講師) 宮城県石巻市の学芸員の方</p>
155	中	中3	道徳	「命と向き合う」	<p>「今ここにいることの不思議(命の偶然性)」について、精子と卵子が受精する動画を視聴し、「つながりと関わり(命の連続性)」について、鈴木せい子氏の「生きてるだけで百点満点」の著書の一部を読み、命の尊さについて考えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学道徳3 ・「生きてるだけで百点満点」(鈴木せい子著)
156	中	中複合	道徳	生命の尊さ	<p>「ハゲワシと少女」の写真を見せ、写真を見てどう思うか、写真家の行動に賛成か反対か考えさせ、グループで話し合い発表した。資料を範読後、考えが変わったかをワークシートに記入させた。</p> <p>最初の写真家に対する意見では、反対が多かった。グループ活動では真剣に話し合う様子が見られ、結果として賛成が多くなった。資料を読んだ後、最終的には多数が賛成という結果になった。授業を通して、生徒一人一人が少女の命、スーダンに生きる子どもたちの命、ケビンの命について様々な角度から考えることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1～3年の複合式 ・写真「ハゲワシと少女」資料「報道か人命か」
157	中	中2	道徳	生命の尊さ・命を大切にすることは	<p>「国境なき医師団・貫戸朋子」紛争という極限状態における貫戸朋子さんの判断についての議論を通して、命を大切にすることはどういうことなのかを考えていこうとする態度を育てる。</p>	<p>学年：2年</p> <p>各教室にて担任が指導教材：「中学道徳とびだそう未来へ」</p>

158	中	中1	道徳	『いのちを考える』	授業の導入として自分が生まれてから今まで経過した時間を計算させた。自分たちはどんな命と共に生活しているかを考えさせた。班で考えさせたが、どの班も動物や植物の命が挙げられた。動植物の命のほかにも「人の命」もあることを告げると納得している様子が見られた。教科書を読み、『ひとのいのち、いのちは同じ、いのちなしには生きられない私たち』について考えた。この授業を通して、いのちを粗末に扱っていけないということを改めてわかったとワークシートに記入する生徒が多かった。	教科書
159	中	中2	道徳	「たったひとつのたからもの」	発問「精一杯生きるとは、どのように生きることだろう」というテーマに沿って、「たったひとつのたからもの」を読んだ後に、「命」の大切さや「生きる」ことについて自分事として考える活動を行った。	
160	中	中3	道徳	鳩が飛び立つ日～石井筆子～ 「よりよい社会の実現」 【社会参画, 公共の精神】	1900年代、石井筆子がどんな子どもでも教育を受けることができるように努力していた。しかし、自分の娘たちを亡くしたことや、創設した学園の火事などから絶望し学園の廃止を決意した。しかし、周りの人々からの声や寄付金によって、もう一度学園を再開して全ての人に開かれた社会の実現に向けて努力することを決めた。生徒は、石井筆子の生き方を通じて、一人が周りのために努力をするとともに、まわりの人が一人を支えることで社会を成り立っていることに気づいた。その上で、自分にできることについて考えることができた。	中学道徳3 とびだそう未来へ 教育出版 「鳩が飛び立つ日～石井筆子～」
161	中	中3	道徳	カーテンの向こう「気高い生き方」【よりよく生きる喜び】	末期症状の患者が生活する病室で、自力で動けない患者しかいない状況の中、Aさんは唯一窓際のベッドで生活し、窓の外景色を病室内の患者に伝えていたが、窓際のベッドを誰にも譲らないため妬ましく思われた。しかし、窓の外にはコンクリートの壁しかなく、病室内の仲間とうそをついて元気を与えていたことに、Aさんが亡くなった後に気づいた。生徒は仲間を思いやるために一生懸命うそを考え、命が無くなる最後の日まで本当のことを言わずに励まし続けたAさんと、自分が同じような状況に置かれたらどんな行動をとるか考えた。この学習を通して、仲間のことを思いやる大切さや、仲間のために行動を起こす難しさについて考えることができた。	中学道徳3 とびだそう未来へ 教育出版 「カーテンの向こう」
162	中	中2	道徳	生命の尊さ	「国境なき医師団・貫戸朋子」を読み、「命を大切にする」ための判断の難しさを多面的・多角的に捉えさせることがねらいである。貫戸さんの判断によって影響を受けるそれぞれの立場（患者、患者の家族、医療従事者、次にくる患者など）で考えさせ、グループで提出させ、クラスで共有した。「みんながみんな誰かの大切な人」という視点から、「命の大切さ」について考えを深めることができた。	教科書 中学道徳② とびだそう未来へ 8「国境なき医師団・貫戸朋子」
163	中	中2	道徳	生命の尊さ	ボスニア・ヘルツェゴビナで「国境なき医師団」の一員として働く貫戸さんのもとに、助かる見込みがないと思われる五歳の男の子が運ばれてくる。酸素ボンベが一本しかないという状況の中、この子のために酸素を使い続けるのか、酸素を切るのか。ディベート形式で行うことを通じて人の「いのち」の大切さについて再確認する時間となった。	教育出版中学道徳2年 「国境なき医師団 貫戸朋子」

164	中	中2	道徳	「たったひとつのたからもの」	秋雪くんの障害について聞かされ、初めは何も考えられなかった母親が、生きていくために様々な制限がある息子の、懸命に生きていく姿を見ているうちに、変わっていく。母親の揺れ動く気持ちとそれを乗り越えて必死に息子のサポートをしていく様を描いた教材を読み、生きることの意義や人の幸せについて考えた。生徒は秋雪くんのように生きたくても生きれない人もいることを知り、「今」をより大切に生きようと話をしていた。また、人の幸せは人によって違い、短い人生でも幸せな人もいる。大切なのは人生の長さではなく、その密度だという結論を出している生徒もいた。	中学道徳2 とびだそう未来へ 「たったひとつのたからもの」 出典・著者 加藤浩美「たったひとつのたからもの―息子・秋雪との六年」
165	中	中1	道徳	命の恵みをいただきます	動物を飼育し作物を育て自給自足をしている家族は、卵を産めなくなったニワトリを食べるなどして生活している。このことにその家の息子は抵抗を感じていた。息子の「命を食べる」ことに対する葛藤について撮影された動画を視聴した。 現代社会において子どもたちが食肉について、命ある動物であったことをイメージできる機会は少ない。今回の動画を視聴し、今一度食べ物を大切にしようと考えた生徒や、自分や自分の周りにおける「命」について目を向け、考えを深めた生徒が多かった。	動画視聴後担任による授業
166	中	中複合	道徳	捨てられる命	様々な理由から保健所に持ち込まれ殺処分をされるペットの表情や、獣医師として動物が好きでありながら殺処分をしなければならない人物の葛藤について撮影された動画を視聴した。 その施設で年間殺処分される動物の数の多さや飼い主の身勝手と捉えられる理由で保健所に持ち込まれるペットの姿を見て、生徒は自分のペットを大切にしようという気持ちや、命の重さに違いはなくどうしたら殺処分をなくせるか深く考えた。	動画視聴後担任による授業 中2、中3
167	中	中複合	道徳	生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。	本校では、毎年各学年で道徳の時間に命の授業を実施し、「いのちの授業大賞作文コンクール」に全校生徒が取り組んでいる。教材には各学年の道徳科の教科書や、過去の受賞作文を使用した。授業では主人公のふるまいについて自分ごととして深く考え、話し合い活動や議論する場面を設定したことにより、振り返りシートや作文にはいのちの大切さを切実に訴える感想が多く見られた。	教材 中1「いのちってなんだろう」 中2「奇跡の一週間」 出典：東京書籍 中3「いのちの授業大賞作文コンクール」過年度受賞作文
168	中	中2	道徳	性教育講演会	龍ヶ崎済生会病院産婦人科医師の「自分を大切に生きていくために～君は愛されるために生まれた～」という講演会を実施した。 「生きる」につながる教育ということで、「性」ではなく「生」を使用した。 生命誕生について知ることで、自分や周囲の人の命の尊さに気づくことを目的とした。 エイズを含む性感染症について理解を深めさせるとともに、自他のいのちや体を大切にすることを養うことをねらいとした。生徒たちは講演を聞いて、性感染症を正しく理解し自分や周りの人が悲しむ結果になることや、安易な性行動が性感染症や望まない妊娠につながることに気づいたと思われる。 いのちの始まりと誕生の話が、特に印象に残ったようだった。講演後の感想からは、いのちの重さと、それぞれが大事な存在であり自他のいのちと体を大切にしたいと感じた様子が見られた。	講師：龍ヶ崎済生会病院産婦人科医師

169	中	中3	道徳	性教育講演会	<p>山梨大学非常勤講師の先生による「自分を大切にすること」という講演会を実施した。エイズを含む性感染症について理解を深めさせるとともに、自他のいのちや体を大切にすることを養うことをねらいとした。生徒たちは講演を聞いて、性感染症を正しく理解し自分や周りの人が悲しむ結果になることや、安易な性行動が性感染症や望まない妊娠につながることに気づいたと思われる。さらに、エイズなどの性感染症は他人事ではないことに気づき、予防方法などを学ぶことができた。</p> <p>また、自分の存在の大切さに気づくことを通して、他者の大切さにも気付くことができ、自分を大切にすることが相手を大切にすることにつながっていることを実感することができた。</p>	講師：健康教育アドバイザー
170	中	中1	道徳	いのちの尊さ 「あなたはひかり」	新しい道徳1年東京書籍「あなたはひかり」を使って、自分自身のいのちについて多面的・多角的に考え、いのちの大切さを自覚し、前向きに生きようとする態度を育てることをねらいとして指導した。生徒は授業の後、いのちについてをテーマに感想文を書いた。	自校教諭 新しい道徳1年 東京書籍 「あなたはひかり」
171	中	中2	道徳	道徳授業 「つながる命」	「死」には「心臓停止」と「脳死」の2つがあることを知らせ、2つの死の違いを説明した。その後、臓器提供を受けた側と、臓器提供をした側の話を紹介した。どちらの側にも迷いや苦悩があることを理解し、臓器提供を決断した家族はどんな思いで臓器提供をすることを決めたのかなどを考えることを通して、生きる意味について意見を交換した。自分のために生きる、他者のために生きる、誰かに生かされていることもあるということに気づいた。命はたくさんの思いに支えられているということにも気付いた。	光村図書道徳教科書 毎日新聞
172	中	中1	道徳	「捨てられた悲しみ」(生命の尊さ)	捨てられた犬猫が保健所に収容され、殺処分されるまでの流れや、殺処分数のデータ、保健所に勤める人の実態を知ることで命の大切さについて学習した。教科書の文中にある「処分」「収容」といった言葉の意味を生徒達が分担して調べ、家族・大切な命に対して適切とは言えない扱いであることを再確認した。また、令和6年1月に発生した飛行機事故を取り上げた。ペットが貨物として扱われている状況や客室にペットを連れ込みたいという人達のニュース映像を見て、命を大切にするためにどのようにすべきか生徒に話し合わせた。ペットを飼っている生徒も飼っていない生徒も、ペットや生き物の目線で命について考えることができた。	光村図書「中学道徳①」P.102 テレビのニュース番組がYouTubeに上げている報道の映像を、モニターで映して視聴した。
173	中	中3	道徳	いのちを考える	資料を読み、赤ちゃんの誕生に備え助産師さんが向き合っている「もっと大きいもの」について考え、隣の席同士で意見を交流した。また、「助産師さんは、いつもどんな気持ちで赤ちゃんを抱きあげるのだろう。」と発問に対して、生徒が助産師役となり、新生児抱き人形を抱きあげる体験を通してその気持ちを考えた。最後に「本文に生まれてきてくれて、ありがとう。とあるが、助産師は赤ちゃんの何に感謝しているのだろう。あなたが自分や他者のいのちに感謝するのは、どのような時だろう。」といった発問に対し、振り返り用紙に自分の考えを記入した。用紙は後日廊下に掲示し、読み合うことで意見交流した。	資料「生まれてきてくれてありがとうー助産師からのメッセージ」(新しい道徳 東京書籍)

174	中	中複合	道徳	生命の尊さ	全学年対象に夏休みの課題として実施。5年目の取り組みとなる。「命」や「生命の尊さ」について考えさせられた新聞記事・投書（ネットニュースも可）について、①記事を選んだ理由、自分の考え、②家の人の感想、考えをスライドにまとめ提出させた。2学期の道徳の授業で、級友のスライドを見合い、考えを共有し、「いのち」について多面的多角的に考えを深めさせた。	夏休みの教科の課題とともに、一覧に載せた。道徳担当がクラスルームにスライドを投稿・配布した。提出されたものは、PDFにしてクラスで共有し、考えを交換した。
175	中	中複合	道徳	生命の尊さ 人権	全学年を対象に、実際に起こった一家族の事件を題材にしたアニメーションの視聴と被害者家族の話を通して、人権を無視した理不尽な行為である犯罪によって命を奪われた犯罪被害者の家族の心情や、犯罪行為をしてしまう人間の弱さや恐ろしさ、そして「命の大切さ」について考えさせた。講演後書かせた感想では、自分ごととして事例をとらえ、「いのち」や「家族」について考えたことを、日常生活にいかそうとする態度が見られた。	神奈川県警察と連携して被害者支援を行っているNPO法人神奈川被害者支援センターのスクールアドバイザーによる授業。
176	県西	中1	道徳	「ゆう～いき てくれてあり がとう」 つながる命	多くの人々の支えによって生きていると気づくことで、誰もがかけがえのない存在であると理解し、互いの存在を大切にしようとする実践意欲を育む内容を扱った。授業のまとめでは、「私がここまで生きているのは、いろいろな人がいるからで、いつか死んでしまうその日まで私を育ててくれた人たちには感謝したいと思った。」と考えを深めた生徒もいた。	「中学道徳 あすを生きる 第1学年」（日本文教出版） D-（19）生命の尊さ
177	県西	中2	道徳	体験ナース	「体験ナース」の授業を通して、改めて自分が生まれてきた過程が気になった生徒がいた。また、将来子どもを育てることもあるかもしれないことに想いを馳せ、自らの保護者に自分の成長してきた過程を聞いてみようとしていた。命はとても大切なものであること、そして、命は喜びや悲しみや辛いことを乗り越えてあるものであることを噛みしめていた。	「中学道徳 あすを生きる 第2学年」（日本文教出版） D-（19）生命の尊さ
178	県西	中3	道徳	「生命の尊重」	東日本大震災の経験をした中学生の作文を読んだり震災の写真や動画を見たりして、今の生活が当たり前にあるわけではないことを改めて考えるとともに、最近発生した能登半島での震災について深く考えた。その中で、「希望を失わない限り何度でも復興できる」という言葉に着目し、「今の日常を精いっぱい生きる」「たくさんの方に挑戦する」など、多くの生徒が改めて日々の生活を大切にしようとする気持ちを高めていた。	『中学道徳 あすを生きる③』日本文教出版
179	県西	中3	道徳	エリカ―奇跡の いのち―	自分が今ここで生きていることの尊さ、かけがえのない命と意志を持つものとしてどう生きるか考えた。	中学道徳 あすを生きる3 日本文教出版
180	県西	中複合	道徳	多様な性について 知ろう	トランスジェンダー当事者を講師に招いた。1学年では講師の人となりを知ること、2学年では講師の考え方を知ること、3学年では当事者との関わり方を考えることをメインテーマとして、学年ごとに講演を行った。3学年は1学年より毎年講師と関わり、多様な性に関する知識や理解を深めてきた。	T.Sさん （トランスジェンダー 女性）

181	県西	中2	道徳	生命の尊さ 「命を見つめて一猿渡瞳さんの六四六日ー」	「命を見つめて一猿渡瞳さんの六四六日ー」（日本文教出版）を用いて授業を展開した。導入では、母親から病気のことを聞かされた瞳さんの気持ちを考えた。その絶望感を想起させ、展開の部分では治療と向き合う瞳さんの気持ちとまた瞳さんの命を支え続けたのはどんな思いだったのかを考えさせた。そこから瞳さんの自らの強い意志と生きていることの奇跡に気づかせた。終末では、限りある命を懸命に生きることの素晴らしさについて考えた。その結果、生きていることが当たり前であると考えている生徒が、生きていること自体が素晴らしく、今ある命を悔いなく懸命に生きなければならないという変容が見られた。	教諭 参考文献「命を見つめて一猿渡瞳さんの六四六日ー」
182	県西	中1	道徳	生命の尊さ 「ばあば」	「ばあば」（日本文教出版）を用いて授業を展開した。導入では、祖父母と同居しているかを聞き、身近なところからイメージを持たせた。「ばあば」は長生きをしていることを申し訳ないと思っているのと同時に、ありがたいとも思っているところから生き方や、生きる姿そのものが家族の支えになっていたことを理解させた。その結果、人を支えるということは、具体的に何かをしてあげることでだけでなく「ばあば」との日々の生活や、存在そのものが互いに支えになっていることに気づくことができた。	教諭 参考文献「ばあば」
183	県西	中3	道徳	生きていることの奇跡	生後2, 3か月の時に、両親が強制収容所に連行されている中、タイミングを見計らい、毛布でくるみ草むらに投げてもらい、その後、近くにいた女性によって育てられたユダヤ人の女性の物語を通して、今自分が生きていることは様々な奇跡が重なっていることを実感する。また、自身の命がかけがえがないことを知ることを通して命のつながりについて考える。	エリカ -奇跡のいのち-
184	県西	中2	道徳	命の大切さ	小学校6年生の時に骨肉腫になってしまった猿渡瞳さんの生き方をもとに、今の自分にできることや懸命に生きることの大切さについて考える。また、周囲に支えられていることに気づくことを通して、感謝や思いやりの大切さについて考える。	命を見つめて -猿渡ひとみさんの六百四十六日-
185	県西	中2	道徳	生命の尊さ	右大腿骨骨肉腫を患った猿渡瞳さんが、生きる希望を失わず最期まで病気と闘った実話である。医師に病状や治療方針を確認しながら、病気と向き合い闘病生活を続けた。瞳さんの生き方からかけがえのない出会い、限りある生命を一生懸命に生きる大切さを実感することができた。	対象学年：中2 教材：「命を見つめて一猿渡瞳さんの六四六日ー」日本文教出版
186	県西	中3	道徳	生命の尊さ	臓器提供や臓器提供意思表示カードをとおして、生命の尊さや価値観を考えさせるものである。自分の大切な人が脳死になってしまったら、自分はどうのような判断をし、どのような態度をとるのか、自分の価値観に照らし合わせて考えた。自分だったら臓器提供するかについて、学習前後で考えが変わる生徒や、さまざまな価値観にふれて悩む生徒などそれぞれがしっかりと問題に向き合う姿が見られた。	中学道徳 あすを生きる 3年

187	県西	中3	道徳	生命の尊さ	東日本大震災による震災遺構の内容を中心に授業を展開した。宮城県石巻市にある2つの震災遺構（大川小学校と門脇小学校）を通して、いのちのつながりについて考えた。施設を震災遺構として保存するという複雑な思いから自分自身に置き換え、今の自分ができることを考えた。また、防災の観点から自分のいのちを守ることを考え、「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論した。	・自作教材 ・ZOOMでの対談（録画） 石巻市役所（市役所災害伝承推進課）
188	県西	中1	道徳	生命の尊さ	教科書の「決断！骨髄バンク移植第一号」で、悩みながら自分の骨髄を提供した方の姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さや、自他の生命を尊重しようとする態度について学習をした。骨髄移植に対する世間の理解が乏しかった1980年代後半、白血病により生死の境にいた方のために家族の反対を押し切り、骨髄を提供しようとする方の勇気ある行動について考えた。 授業後、「いのち」について考えたことを作文にまとめる学習を1時間実施した。見ず知らずの人にも関わらず、手術の恐怖と闘い、家族の反対も押し切り、「いのち」を救う行動をした方の生き方から、他者の生命の尊さに気づく様子が見受けられた。	教材：教科書 新訂 新しい道徳1 （東京書籍）
189	県西	中3	道徳	生命の尊さ	教科書の「生まれてきてくれて、ありがとうー助産師からのメッセージ」「くちびるに歌をもて」「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」の3つの題材でかけがえのない自他の生命を尊重したり、困難な状況でも自己の生命を守り大切に生きてしようとする態度について学習した。助産師の一日の様子が分かる動画を見て、助産師の大変さや、やりがいについて学び、「いのち」はなぜ大切なのかについて考えを深めた。3時間の授業後、「いのち」について考えたことを作文にまとめる学習を1時間行った。 「いのち」とは、家族や親戚、医師や助産師など多くの人の協力を経てこの世界に誕生するもの、受け継がれ遺していくものであり、自分だけのものではないことに改めて気づく様子が見受けられた。	教材：教科書 新訂 新しい道徳3 （東京書籍）
190	県西	中3	道徳	【その子の世界、私の世界】	中心になる活動は、道徳の教科書にある4枚の写真（世界の子どもたち）を見て感じたことをクロムブックのジャムボードで共有し合うこと。導入で自分が「生きている」のを実感する場面をたくさん挙げ、自身の現在の環境や自分が大切に思っていることを考えることにより、自分との違いを実感でき、写真の子どもたちに寄り添う意見を多く引き出せた。ジャムボードで大勢の意見を見た後、限りある命をどう生きるか、今後の自分の生き方を考えさせた。	東京書籍「新しい道徳」3年
191	県西	中1	道徳	生命の尊さ 「いのちを考える」	人の受精卵の大きさが、小豆の大きさとほぼ同じであることから、生徒全員に小豆を配付した。その小ささから、生命の偉大さを感じていた。養護教諭より自身の出産・育児の体験談を聞いた。生徒の多くは、授業前に自分の誕生時の様子などを家族から聞いてきており、出産・育児に対しての家族の喜びや苦労などに共感することができた。	講師は、本校養護教諭

192	県西	中 1	道徳	道徳教育 「いのちの尊 さ」	講師を招いて、いのちの大切さについて講話をいただいた。講話では、いじめを受けていた人の生の声を聞く場面があり、生徒たちは自分の行動を振り返り、考えている様子が見られた。また、講話後の感想を読むと、相手の立場にたって言葉をかけていこうと考える生徒や、嫌な思いをしている友達を見かけたら声をかけていこうと考える生徒がいた。	講師：NPO法人ジェントルハートプロジェクト 理事
193	県西	中 2	道徳	国際理解 国際貢献 「危険地帯から実 りの土地へ」 「モザンビークの 女性や子供が学べ る場を」	カンボジアの地雷撤去に関わった雨宮さんの思いを考えることで、一方的な支援や協力ではなく、相互に相手を尊重し、協働同していくことの大切さを理解した。また、その後、親友の死をきっかけにしてモザンビークで医療ボランティアに携わった女性の話を読んで、病気で命を落とす人をなくす取り組みについて知り、国際貢献について考えることができた。	「危険地帯から実りの土地へ」「モザンビークの女性や子どもたちが学べる場を」（新・中学生の道徳『明日への扉2』 GAKKEN）